

Taiyou
kaihatsu

DNA book





INDEX

message from Taiyou kaihatsu	03
大陽開発からのメッセージ	
Taiyou kaihatsu DNA	05
大陽開発のDNA	
Voice of those days	23
OBインタビュー	
Construction Works	31
施工事例	
Excellent Constructions	37
歴代優良工事	
History & Data	39
沿革&データ	
message from Elina Yamasaki &	47
Taiyou kaihatsu Photos	
写真家 山崎エリナからのメッセージと 大陽開発写真集	



せりょう
大陽開発株式会社 創業者 荒木清良

message from
Taiyou kaihatsu

原点を見つめ、 共に歩み続けるために

わが社は昭和43年に創業し、57年という歳月を積み重ねてきました。
現在では創業当時のメンバーも不在となり、世代交代が進んだことで、
大陽開発がこれまで歩んできた歴史について実際に知る人も少なくなりました。
そんな今だからこそ、創業以来、大切に育まれてきた「大陽開発の精神＝DNA」を
永続的に受け継いでいきたいと、この【DNA book】の発行に至りました。

当時を振り返ると、創業後の約5年間はオイルショックの影響も大きく、
全国的にいつどこで会社が倒産や解散をしてもおかしくないような状況下で、
この旧東頸城地域全体も例外ではなく、かなり苦しい状況が続いていました。

厳しい時代を耐え抜いたことにより、次第に工事の受注量も増加。
昭和50年代には、歩掛の改定などもあり、業界としての状況が年々上向きへと
転じていきました。また、周囲が認めざるを得ないほどの実績を着実に
積み上げることで、大陽開発は地域の中での存在感を高めていけたのだと思います。

また、常に“安全と品質”を追求し続ける姿勢や努力が身を結び、
近年では重大事故の発生はゼロに。同時に“元請直営体制”を貫くことにより、
雇用の確保はもちろん、材料調達等を通じて地域への貢献も継続することができ、
結果として地域からの信頼を勝ち得たことは大陽開発の誇りです。

この先に待つ社会の変化に適応し、その壁を共に乗り越えていくために――。
皆さんが迷いや不安を感じた時に、大切なことを見失うことのないよう、
この【DNA book】が明かりを灯す一冊となれば幸いです。

大陽開発株式会社
代表取締役会長 荒木 一

交通安全宣言事業所
総合建設業 大陽開発株式会社



Taiyou
kaihatsu **DNA**

大陽開発が守り続ける、
7つの
DNA
を紐解く

挑 戦

を受け継ぐ



1978年「関山地区白田切川緊急復旧治山工事」

白田切川災害など、今でも社内で語り継がれるほどの難工事を、私たちはやり遂げてきました。そんな全員の力を結集させることで、いかなる難関も突破することができる自信と勇気を掴み取ることができ、これからも、私たち自身が成長するきっかけとなるような、新たな挑戦を続けていきます。

数々の挑戦を重ねながら、「挑戦する意欲」や「チームプレー」の精神が根付いていきました。

02

工夫

を重ねる

1998年「組倉災害関連緊急事業」
大陽開発初、ヘリコプターを工事現場で使用し、2億円の工事を3日で完了させた。

施工計画会議や週間工程会議など、さまざまな会議を通して「技術の蓄積」と「情報の共有」を強化
現場での作業内容を全員がわかりやすく理解できるように、自社専用の作業手順書を作成し活用
“工夫”や“提案”に、さらなる“改善”や“改良”を加えることで貴重な成果が積み重なり、私たちの

し続けてきました。

するなど、これまで現場で実践した
財産として受け継がれています。

03

堅 実

に取り組む



2003年「牧第2地区第14-2次工事／牧第2地区第15-1次工事」

創業以来、「とにかく重機を止めるな!」がモットーだった私たち。現場公共工事では時代とともに、安全性や品質等において明確な管理管理手法を学ぶことで、より良いものを、より安全に、より早く提供することが大切になってきました。そしてその堅実さはいつしか社風となり、社員

での作業効率を考え抜き、生産性の向上に努めてきましたが、が求められるようになっていきました。そこで私たちは、周辺企業に先駆けて経営コンサルタントからことに成功。学び取った「堅実な施工管理」を新たな会社のモットーとし、ひとりひとりに浸透、現在にも引き継がれています。



04

安全

への想い

土砂崩壊対策は特に高い技術が求められることから、現場だけに任せきりにせず、会社の総力を上『事故を絶対に起こさない』という精神のもと、安全作業手順書などを活用しながら定期的なパートナー全員が参加する施工計画会議では、危険予知はもちろん具体的な対策を立案。現場で実践

げて対応。過去に起こした事故を忘れず、ロールや会議などを行い、常に安全意識の維持・向上を図っています。することで、より高い安全性を確保し続けています。

タッチ&コール：チーム全員で結束し、1日安全に工事をスタートしていく、『ケジメ』『スタート合図』。隣の人の小指を握って輪を作り、
「主任：今日も1日ご安全に！ 全員：ヨシ！」の合図で、全員で輪の中央に向かって指差呼称を行う。

05

地域

とのつながり



2018年3月「藤尾の燐炭アート」

地域の活動に積極的に参加し、物心共に力を尽くしてきました。また、近年では、主体的に地域活動を企画・実施する「里山イノベーション時代」が移り変わっても常に地域との関係を築く努力を続けています。地域にできる最大の貢献であると、私たちは考えています。これからも

200人を超える多くのスタッフを雇い入れていた時期もあり、地域の雇用創出にも寄与。研究会」を地元有志と設立し、地域活性化イベントにも関わるなど、しかし、本質的には安心して任せられる“しっかりとした施工を行うこと”こそが、その本質を忘れず、地域No.1の信頼を得られるよう努力を続けていきます。



2023年6月「H403号坊金改良 橋梁下部工その2工事」

06

品質

を追い求めて

1981年からスタートした「SQ活動」の理念をベースに、品質向上への意識が定着。元請直営体制目標値を掲げて優良工事の表彰を目指すとともに、施工についても計画会議を行い、品質や見栄

により、妥協することなく施工することが私たちの強みとなりました。常に高い評定点のえに対して具体的な目標を設定することで、高精度の施工を実現可能にしています。

SQ活動：安全作業の確保を目的としてスタート。その後は、安全で働きやすい環境づくりと、よりよい品質の向上を目指した会社としての活動に。
活動の成果物や考え方は、現在の大陽開発の財産であり基盤となっている。

07

ひと

をはぐくむ

社員が仕事をする上で満足できるように、給与は地域の中でどこよりも高く出せるよう努力しています。そのほか、社員のスキルアップや必要な資格取得のための教育にかかる費用などを惜しまずに援助。オフシーズンには計画的な勉強会を継続して行うなど、一人ひとりの成長を後押しすることはもちろん、未来の担い手となる若い力を確保するため積極的な採用活動を展開しています。

2023年6月／8月「各現場・本社事務所より」



7つのテーマから
導き出される
太陽開発の
DNAとは。

「せっかち」で「こだわり」が強く「まじめ」。
「思い立ったら即行動」し、常に「前向き」。

地域と「つながる」ことに熱い想いをもちながら、
ひたむきに仕事へ取り組む集団、
それが私たち太陽開発。

これまで積み重ねてきたこと、
そして、これからも大切にしていきたいこと、
すべてが【DNA】に深く刻みこまれています。

Taiyou
kaihatsu DNA

Reflection

Taiyou kaihatsu Works

がむしゃらだった
あのころを振り返って。

創業時から活躍されてきた大陽開発のOB3名と、今でも大陽開発のDNAを継承し続けている2名にお集まりいただき、当時の仕事内容や工事現場の様子、うれしかったことや大変だったこと、また初代社長（創業者）荒木清良の名言や人柄などについて、それぞれ個別にインタビュー。さらに、全員が揃った座談会では会社が一番忙しかった頃のことや、当時働いていた人たちについてなど、思い出話に花が咲き、最後にはこれからの大陽開発を背負うスタッフに向けて熱いメッセージをいただきました。



お話をお伺いした
大陽開発DNA体現者たち



Ichi Araki
荒木 一
-1971年入社-

〔元〕2代目社長 〔現〕会長
若くして営業の最先端に立ち、並み居る営業猛者と対峙して営業力と経営感覚を磨く。持ち前の「堅実さ」と、守るために常に新しいことに挑む「攻め」の信念で会社を大きく成長させる。



Shinichi Uchiyama
内山 信一
-1975年入社-

〔元〕技術職・施工責任者
〔現〕常務取締役
技術職の頃に、測量や工程管理など様々な仕組みを構築。生まれ持った社交的な性格と明るさで交友関係も広い。これからは農業の時代だと入れ込み、農家も舌を巻くほどの知識を持つ。



Tsutomu Yokoo
横尾 努
-1969年入社-

〔元〕現場主任・
現場の統括責任者
真面目で向上心があり、責任感が強い「ザ・こだわり派」。また、朗らかで人望がある。現役時はボーリングの名人として名を轟かせた。



Takeichi Waguri
和栗 武一
-1975年入社-

〔元〕職方・型枠大工
中学卒ながら、独学で技術を習得した伝説の職方（大工）。この人の頭の中はどうなっているんだと、みんなが驚く提案を連発。当然「ザ・こだわり派」。



Susumu Watanabe
渡辺 進
-1968年入社-

〔元〕技術職・施工責任者・
プラントマン・資材係
過去のできごとの大半はこの人に聞くことになるほど記憶力に優れる「生き字引」。会社の記録より正確な門外不出の記録簿を持つ。おしゃれ好き。

重大事故が減ったということ。細かな事故はあるとしても、重大な事故がなくなったというのが、一番うれしかったことかな。社内的なことでは、みんなが会社の方を向いて、一生懸命やってくれていること。いろんなことに取り組んでくれることで、仕事の品質が上がってきたのも、うれしいね。



Ichi Araki

橋は何十本かけたか、数え切れない。

橋なんか何十本かけたか、もう数えきれないけどね。宇津保にかけた35mの橋かな、あれが一番長くて凄かった。そこの現場には手伝いに行っただけなんだけど、うれしかったというか、感動したんだよね。実はできてから一度も通ったことないんだけど(笑)。



Takeichi Waguri

雨の日でも
測量できる仕組み
を思いついた。

現場の責任者をしていた頃、雨の日でも測量できる仕組みを思いついた時は、面白かったし、うれしかったですね。あとは、新潟県で一番でかい地滑りの現場で、みんなで英知を出しあって準備万端で臨むことで、実質3日で終わらせたことかな。初めてヘリも使ったし、設計や予算とかを任せてもらって、実際にやれたっていうのがすごかったなと。そこで培った技術っていうのが今に生きてると思いますね。

Shinichi Uchiyama

うれしかったこと
ないわね(笑)

機械もないしさ、あの当時は。もう人力だ。当時は技術者なんていないんだもん。もうみんな百姓上がりとかさ、そういう人の集まりでさ。現場の総監督だったから、苦労の方が多かったね。だからか、工事が完了すると、喜びというか、そういうのが強かったね。



Tsutomu Yokoo

死亡事故が
なくなったことが
唯一かな。

うれしかったことといわれても思い浮かばないけどもね、ただ言えることは、ひとり亡くなって…36年になるのかな？その方が亡くなられてから、この会社で死亡事故がないんだわ。うれしかったのはそのくらいかな？ただね、語り尽くせば苦労したこととかならたくさん出てくる。昔のまづい点とか(笑)。



Susumu Watanabe

9、10月は稲刈りで
人がいなくなるから。

9月、10月になると稲刈りで人がいなくなるから、手が足りなかった。地域の人たちから協力してもらうのに特別手当て出して、10日でもいくら、20日でもいくら、いや15日か…。10日、15日、20日で割増にしてね。それに、11月10日くらいを過ぎると、出稼ぎ行っちゃうから(笑)。

Ichi Araki

残業は普通だった。
当たり前だったよね。

うちの娘は、3つになるまで俺が親だとは思ってなかったくらい(苦笑)。時代がそういった時代で、夜中も仕事があつて。食事を取って残業して書類を作り、昼間は現場で仕事をしていた。現場の人たちもみんな残業して忙しかった。その時代に考えたシステムが契約社員だね。

Susumu Watanabe



会社で一番売上げが良かったのが平成8、9年。新潟県の建設会社全部が一番ピークだったんで、完成工事は33億円、売上げはもっとありましたね。仕事は忙しかったけど、肌感覚はそれぞれだね。まあ多分、発足当時は忙しかった、仕組みもなかったからね。その当時は社員と契約・短期雇用の人を入れても200人を超えてたんですけど、あの当時、現場を管理するのがいろいろ大きくなって大変だったね。

Shinichi Uchiyama



親父を説得するのが
一番苦労したな。

工事を下請けに出すって言うと、親父(先代の会長)が年がら年中文句言ってさ。「なんで下請けに出すんだ、気に入らん！」って。出さないと仕事が回らないし、工期の問題もあるんだって言っても、全っ然聞かなかった。あれを説得するのが一番苦労したな。仕事がなかった時の苦しみを知ってるからだろうけどね。

Ichi Araki



新潟県の建設会社
全部が一番のピークだった。

会社にいても、家にいても、
年がら年中
怒られたもんだよ（笑）

名言といえば「事故を起こすな」。「事故を起こすな」ってことは、口酸っぱく言っていたね。それと「品質を上げなきゃいけない」そういうこともよく言っていた。生真面目でもあったね。生真面目だから、外に出てる営業ってのは苦手だった。あと、名言というか、親父（初代社長）もそうだったし、私もそうだったけど、まず社員のことを考えなくちゃいけない。いかに社員を良くしてやるか、だから親父が一番喜んでいたのは、社員に初めてボーナスを払えた時、「社員にボーナスを払った」と、お袋と二人でものすごく喜んでたのが目に焼き付いてる。物ごとに対しても、すごく「誠実」だったね。

Ichi Araki

「晴れている時は雨が降ることを
降っている時は晴れることを
予想して準備しろ」

よく言っていたのは、「晴れている時は雨が降ることを予想して、降っている時は晴れることを予想して準備しろ」という言葉。当たり前のことなんだけど、今の現場でも通じる言葉で、それは受け継いでいるんじゃないかなと思いますね。

Shinichi Uchiyama

たぶん落ちればみんな一緒に落ちるんで、
しょうがないと思って。

白田切川災害復旧工事って言うんだけど、標高2,000mの山がダーッと崩れて、その場所へ重機をワイヤーで吊って下ろしたんですよ。直角に近くて、外注のオペレーターは怖がって帰っちゃって、結局うちの会社のオペレーターが下ろすことになって。怖いから俺も一緒に降りろと言われてました。オペレーターと命綱を一緒につけて垂直のガケを上げたり下げたりした時は怖かったけど、しょうがないと思った。すごく怖かったのはトランシーバーがうまくつながらなかった時。上にいて、巻け巻けて、ワイヤーがビリビリビリビリってなって「止めてくれっ〜！」って。もう一貫の終わりだなと思ったな。ワイヤーに擦れて石が飛んでくるんだけど、避けようがないんですよ。石がどこに飛んでいくかわからないから。当たらなかったから、ある意味運が良かったんだと思うけどね。ただ降りた人は、やっぱり相当怖かっただろうなと思うんだ。体が震えているのを見てこっちも一緒にだみたいな（笑）。

人の上に立つには、
「いいか、
絶対負けちゃ
ダメだぞと」

仕事には厳しかった。でも、温かみのある人だった。どやす※だけどやして、「頼むど」なんて言って。親にも怒られたことないような怒られ方をしてね。慰安旅行に行くと、みんなが酒つぎに行くんだって百何人。俺、行かなかったんだ、大勢いるし（笑）。そしたら朝になったら、「お前、酒つぎに来なかったな」って言われちゃってさ。覚えてらしてさ、大したもんだった。でね、よく言われるのはね、人の上に立つには、「絶対負けちゃダメだぞ」と。「間違ったって、その通りやるんだ」って言ってたね。

※どやす=どなる（かなり激烈に）

Tsutomu Yokoo

おっかない
心を読ん
でるんだ
からね。

おっかない※人だったね。おっかないっていうか、心を読んでるんだからね。冬の現場は寒いんだけど、「お前ら冬は布団に寝かせてもいいんだけど、そうすると夏になって役に立たないから、鼻水垂らして頑張れ」って言ってたね。これ名言なんて言っているのかわからないけど（笑）。まあ豪快な人だったね。あの人機械好きだったのかな？バックホウなんて、デカいのがいい、デカいのがいいって。あと、堰堤の現場に来られると、車のドアが閉まらないうちにばーっと降りてきて、「社長、そこ深いです」って言っても、その声が届かないうちにドボーンと入っちゃうんですよ。長靴の中が泥いっぱいになっても、知らーん顔して（笑）。

※おっかない=うかつに手を出せないこわさ

Takeichi Waguri

Seiryō Araki
荒木 清良

創業者

強烈なリーダーシップで個性派集団を牽引した剛腕。もはや社内では伝説の人であり、強烈すぎるがゆえの名(迷)言やエピソードの数々は、亡くなくてもなお語り継がれている。



この辺(足)がザワザワツとした
こんなところどうやってやるんだと。

やっぱり妙高・赤倉の大災害の現場だね。高低差だけで200m、崩れて山からの水が滝みたいになっている現場で、「うわ〜こんなのどうしようか」と思ったのを覚えている。実際の作業もなかなかうまくいかなかったし、親父（初代社長）も覚悟を決めて、「会社を潰してでもやる！」と言うほどの現場だったね。

Ichi Araki



「何くそ負けるもんか」という
気持ちを持ってもらえるように。

今まで頑張ってきた人たちには本当に感謝してる。みんな、どんな仕事であれ、自分で担当して、それぞれが「何くそ負けるもんか」という気持ちを持って一生懸命やってくれた。今は時代背景が変わって、考え方も変わってきているけど、「目の前の仕事を一生懸命やってるか」と言いたくなる時はやっぱりある。もっと存在感を出してもらいたいね。「いいか、25歳までに今の仕事をよく覚えなさい」と、みんなにはよく言うんだ。35歳になったらもう一人前。25歳から35歳までに評価されて、それによって振り分けられて、どんなレベルの仕事が与えられるか決まってくるからね。土木の仕事は、とにかく経験を積むことが大事。存在感を出して評価されるには、25歳までにどんなことでも一生懸命にやって、仕事を覚えなきゃだめだよな。



Ichi Araki



Susumu Watanabe

いかに自分をスキルアップさせて挑戦していくか。自分のレベルを上げない限りダメだと私は思います。自分や会社のために、いろんな場面でいろんなことにぶつかりながら勉強していました。だから新しい仕事を言いつけられたら、「ありがたいな」と、「これでまたひとつでかくなれるな」と思えるようになるのが大切。「めんどくせえ」じゃなくて、どうするかってのと、いかに勉強して次のものに繋げるかってこと。

いかに勉強して
次のものに繋げるか。

独創的な「個性」がある組織であればいいなと。

独創的な「個性」がある組織であればいいなと。それは続けていってもらいたいな。横尾さんは独特な人の使い方っていうかね、苦しくても人を助けたり、ニコニコしてたり。和栗さんはゼロから始めた大工の型枠の仕事だけど、誰も気づかんようなものを提案して、いろいろ型枠を作られていた。まあ個性のある人しか集まっていなかったかもしれないけど、そういう人が引き続き生まれてくるような職場であることが、止まらないで伸びていく、成長に繋がっていくんじゃないかなと思うね。



Shinichi Uchiyama

「会社の成長に役立つ」
それが大事なこと。

和栗： 従業員の管理って表現しちゃうとよくないかもしれないけど、会社を食うような人材を育てちゃ、うまくないと俺はそう思いますよ(笑)。
会長： まあそんなの今ないわ。
和栗： 今いるってことじゃないんですけど、それも大事なことだろうな。



Takeichi Waguri



Ichi Araki



Tsutomu Yokoo

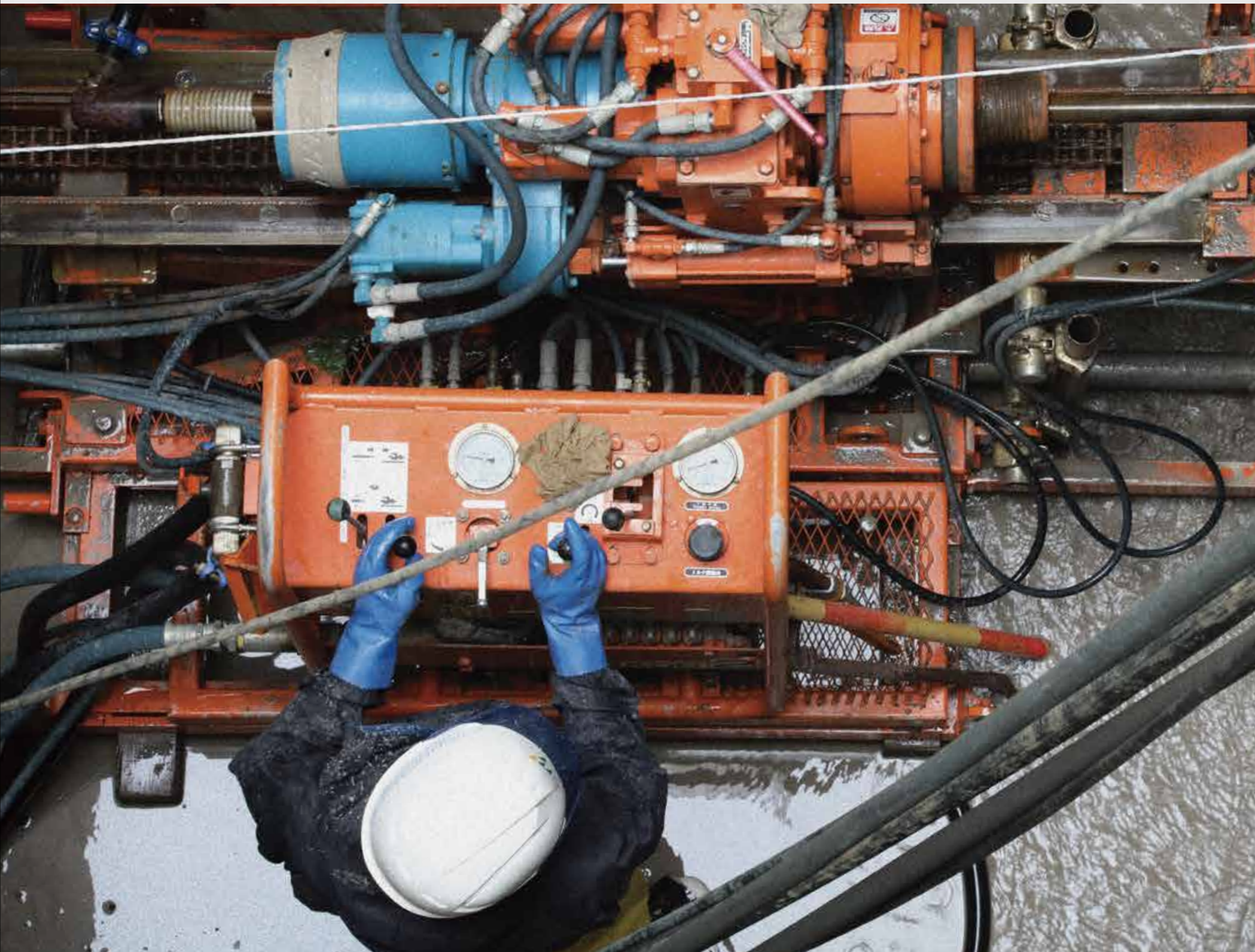
あまり難しい言葉は使えないけど、まあ素直な気持ちで挑戦意欲を持つことを忘れないことかな。

素直な気持ちで
挑戦意欲を持つこと。

ボーナスの
最高額は…。

会長： ボーナス年3回、どれくらい続いたろ？
10年なんてもんじゃないね。もっと続いたろ？
内山： 年3回ですよ、決算手当出していて減らしたって
決算手当の分も含めて出しているときもあるから…
結果的には3回。最高額は…気にしない方がいいんじゃない？
自分で頑張れですね(笑)。





Taiyou kaihatsu
Construction Works

施工事例

Taiyou kaihatsu
Construction Works

施 工 事 例

●:元請け工事 ●:下請け工事

年 度	工 事 名	発 注 元	補 足
1970年(昭和45年)	・不動越地区第3号堰堤工事	新潟県	新潟県農地部初受注
	・坪野川筋砂防災害復旧工事	新潟県	新潟県土木部初受注
1971年(昭和46年)	・関山地区なだれ防止林造成新設工事	高田営林署	
1972年(昭和47年)	・岐阜県山神地区地すべり対策防止工事	利根工事	
1973年(昭和48年)	・県営農道整備事業 高所地区第1次工事	新潟県	宇津俣地区における最初の元請け工事
	・地すべり防止(山)工事	新潟県	
1974年(昭和49年)	・耕地災害復旧事業 田麦立地区集排水井工事	新潟県	
1975年(昭和50年)	・農免農道整備事業 法定寺地区第1次工事	新潟県	
	・頸城地区第2工区地すべり防止新設工事	利根工事	
1976年(昭和51年)	・林道菱ヶ岳線開設(安塚工区)開設工事	新潟県	安塚・大島・松之山を結ぶ広域基幹林道(安塚工区)の最初の工事
1977年(昭和52年)	・法定寺地区第4次工事	新潟県	農道工事の大規模工事化 延長540m
	・地溪第21-1号 地すべり防止(溪流)工事	新潟県	
	・神奈川県三浦郡通常砂防工事	利根工事	
	・埼玉県秩父郡第2拡張第3期配水場工事	八潮建設	
	・埼玉県新大宮バイパス歩道工事	佐田建設	
1978年(昭和53年)	・関山地区白田切川緊急復旧治山第2工区新設工事	高田営林署	妙高山麓で発生した大規模災害復旧工事
	・土改第1号 区画整理第2次工事	(旧)安塚町	圃場整備工事初受注(大原地内)
	・埼玉県秩父郡長瀬玉淀自然公園線道路舗装工事	八潮建設	
1979年(昭和54年)	・ほ第2号 圃場整備工事	(旧)安塚町	
1980年(昭和55年)	・農免農道事業 方越地区第1次工事	新潟県	テールアルメ工法採用
	・横住地区第2次工事	新潟県	
1982年(昭和57年)	・地すべり対策事業 離山地区第4号堰堤工事	新潟県	新潟県知事表彰初受賞
	・関山地区白田切川第2工区復旧治山新設工事	高田営林署	大成建設・太陽開発JV※1
	・長野県佐久市57災害復旧工事	木下組	
1983年(昭和58年)	・頸城地区大湊幹線用水路第1次工事	武江組	BOXカルバート117m スライド型枠使用
1985年(昭和60年)	・県営耕地災害復旧事業 伏野地区水路復旧工事	新潟県	大規模水路災害
	・林構第1号 林道上牧宇津俣線林道開設工事	(旧)牧村	
	・東頸城地区安塚工区第1次工事	新潟県	広域営農団地農業道整備事業開始
1986年(昭和61年)	・主要地方道飯山浦川原線道路災害復旧工事	新潟県	受注額約1億4000万円の大規模災害工事
1987年(昭和62年)	・東頸城地区安塚工区第5次工事	新潟県	
	・刈羽郡高柳町山中農道災害復旧第1次工事	小林・村田JV	

年 度	工 事 名	発 注 元	補 足
1989年(平成元年)	・北北・浦川原護床工事	第一建設工業	現在のほくほく線建設工事の一部
1990年(平成2年)	・工業団地線道路新設工事	(旧)浦川原村	メンク(スクレーブドーザ)大活躍
1991年(平成3年)	・地すべり対策事業 榎谷地区第2-1次、第3-1次工事	新潟県	構造改善局 初の大規模排土盛土工法採用
	・急傾国第32号 上岡地区急傾斜地崩壊対策工事	新潟県	急傾工事初受注
1992年(平成4年)	・八方口地区災害関連緊急地すべり(治水)工事	新潟県	受注額3億250万円の大型地すべり工事
	・二反田工区区画整理工事(高尾)ほか	(旧)大島村・(旧)牧村	大島村・牧村で圃場整備工事が盛ん
	・集排第1号 須川地区管路施設第3次工事	(旧)安塚町	安塚集落排水事業開始
	・北陸農政局 釜塚区域地すべり防止(その3)工事	北陸農政局	北陸農政局初受注
1993年(平成5年)	・松之山地区災害関連緊急地すべり(治水)工事	新潟県	受注額約1億6000万円の杭打ち工事
1994年(平成6年)	・農免農道事業 川平地区第3次工事	新潟県	
1995年(平成7年)	・松崎石橋線改良第4次工事、第5次工事	新潟県	通称リバーサイドロード
	・久々野追加地区地すべり防止工事	北陸農政局	
	・カキヌマ大サーカス会場設営他工事	カキヌマサーカス	
1996年(平成8年)	・ネイチャーランド地区藤尾線第1次工事	新潟県	ガット・ウルグアイ・ラウンド※2対策費による工事発注
	・真川災害関連緊急事業(第1工区)	高田営林署	
1997年(平成9年)	・I ブロック工食用道路他工事	北陸農政局	1994年(平成6年)の干ばつ災害による関連地すべり 1994年(平成6年)の干ばつ災害による関連地すべり
	・堀切川通常砂防(荒廃)工事	新潟県	
	・災害関連緊急地すべり対策事業 蓮野地区第1次工事	新潟県	
1998年(平成10年)	・俎倉災害関連緊急事業(廻排水)	高田営林署	新潟県内最大186万㎡の土砂崩壊「平成の3日普請」
	・印内国道汚水管渠工事	(旧)浦川原村	浦川原下水事業開始
	・北陸農政局岩手工区幹線道路等舗装工事	北陸農政局	
	・農業北部管路第4次工事(塩ビ管推進工)	徳倉建設	
1999年(平成11年)	・日253号(三和安塚道路)一般国道改築工事	新潟県	三和安塚高規格道路 初受注
2000年(平成12年)	・日253号(三和安塚道路)一般国道軟弱地盤改良工事	新潟県	三和安塚高規格道路 軟弱地盤改良工法初受注
2001年(平成13年)	・日253号(三和安塚道路)一般国道改築工事	新潟県	受注額2億2100万円の大型工事
	・上山地区大和合施設災害復旧工事第4工区	高田営林署	大日本土木・太陽開発JV※1
2002年(平成14年)	・下保倉橋架替工事	(旧)浦川原村	
	・岩戸地区災害関連緊急地すべり(治水)対策工事	新潟県	
	・カキヌマ大サーカス会場設営他工事	カキヌマサーカス	

※1 JV=共同企業体 ※2 1986年に開始され、1993年12月に実質合意。世界貿易の障壁をなくし、貿易の自由化や多角的貿易を促進するために行われた多国間通商交渉。

●:元請け工事 ●:下請け工事

年 度	工 事 名	発 注 元	補 足
2003年(平成15年)	・牧第2地区第14-2次工事、牧第2地区第15-1次工事 ・牧村道落田川井沢緊急地方道(Bタイプ・代行)工事 ・細入地区災害関連緊急地すべり(治水)対策工事	新潟県 新潟県 新潟県	県知事表彰工事
2004年(平成16年)	・一級河川柿野川筋河川改修橋梁下部及び迂回路工事	新潟県	
2005年(平成17年)	・菖蒲高原線16年災道路災害復旧工事 ・一級河川堀切川筋河川災害復旧工事	新潟県 新潟県	太陽開発株式会社最後の直営杭打工工事
2006年(平成18年)	・川口町田麦山地区災害関連緊急地すべり対策工事	村尾技建	
2007年(平成19年)	・日253号地域連携(国道改築)山本農道ボックス工事 ・農免農道事業 上岡3期地区第5次工事	新潟県 新潟県	
2008年(平成20年)	・柳島信濃坂線緊急地方道(改築)工事 ・日253号(三和安塚道路)地域連携国道改築桜島工区舗装工事 ・刈羽村中央地区災害復旧工事第11工区	新潟県 新潟県 丸高建設	総合評価落札方式で初の逆転落札
2010年(平成22年)	・債地第4号 地すべり防止工事	新潟県	
2011年(平成23年)	・下野田地区軟弱地盤改良その7工事	高田河川国道	国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所初受注
2012年(平成24年)	・門田新田地区軟弱地盤改良工事 ・櫛池地区地すべり防止工事	高田河川国道 上越森林管理署	
2013年(平成25年)	・一般国道253号(三和安塚道路)山本工区排水樋門工事	新潟県	県知事表彰工事
2014年(平成26年)	・上岡地区平成26年度第26-1次工事	新潟県	上岡圃場整備工事の開始
2015年(平成27年)	・寺地区外改良その2工事 ・大潟高柳線防災安全(融雪)雪崩予防策設置工事	高田河川国道 新潟県	4万㎡以上の盛土工事 大潟高柳線沿線における一連の雪崩予防柵設置工事初回
2016年(平成28年)	・上越市下野田地区その3工事 ・一級河川柿野川流域／治水工事	高田河川国道 新潟県	大潟樋門設置工事
2017年(平成29年)	・上沼道上広田地区軟弱地盤改良工事	高田河川国道	
2018年(平成30年)	・関川上流部河道掘削その5工事	高田河川国道	高田河川国道事務所河川工事初受注
2019年(令和元年)	・細入地区災害関連緊急地すべり対策(治水)工事 ・柏崎市市野新田ダム付帯その2工事	新潟県 丸和	ミゼロン塗装工事
2020年(令和2年)	・令和2年度島田河道掘削工事	高田河川国道	
2021年(令和3年)	・牧地区県営地すべり対策事業第2-6次工事 ・信濃川発電所1期水路トンネル裏込め注入修繕工事	新潟県 鉄建建設	池舟大規模地すべり
2022年(令和4年)	・令和4年災害対策用機械出動管理その5工事 ・牧地区県営地すべり対策事業第3-3次工事	北陸技術事務所 新潟県	上越防災支援センター業務
2023年(令和5年)	・澄川 大規模特定砂防(砂防)補正1号えん堤工事 ・上牧区域(A-1)直轄地すべり防止工事	妙高砂防事務所 上越森林管理署	関東森林管理局表彰工事
2024年(令和6年)	・日403号 坊金改良 坊金橋上部工工事 ・(主)大潟高柳線 防災安全(雪寒・補正)雪崩予防柵設置工事	上越地域整備部 上越地域整備部	



1985年(昭和60年)
林構第1号 林道上牧宇津俣線林道開設工事



1994年(平成6年)
農免農道事業 川平地区第3次工事



1997年(平成9年)
堀切川通常砂防(荒廃)工事



2003年(平成15年)
牧第2地区第14-2次工事、牧第2地区第15-1次工事



2007年(平成19年)
日253号地域連携(国道改築)山本農道ボックス工事



2008年(平成20年)
日253号(三和安塚道路)地域連携国道改築桜島工区舗装工事



2021年(令和3年)
牧地区県営地すべり対策事業第2-6次工事



2024年(令和6年)
(主)大潟高柳線 防災安全(雪寒・補正)雪崩予防柵設置工事

Taiyou kaihatsu
Excellent Constructions

歴代優良工事

年 度	発 注 元	工 事 名
1980年(昭和55年)	前橋営林局長	・ 頸城地区上山第1工区 地すべり防止新設工事
1982年(昭和57年)	新潟県 新潟県	・ 団体営土地改良総合整備事業 菱田地区農道舗装工事 ・ 地すべり対策事業 離山地区 第4号堰堤工事
1983年(昭和58年)	前橋営林局長	・ 関山地区白田切川第2工区 復旧治山新設工事
1988年(昭和63年)	日本林道協会	・ 菱ヶ岳線(伏野地区)林道新設工事
1989年(平成元年)	前橋営林局長 新潟県	・ 上山地区施設災害地すべり防止復旧工事 ・ 離山地区第63-2次工事
1992年(平成4年)	頸城村 県農業土木技術連盟	・ 林道湯ノ入線舗装工事 ・ 中山間地域農村活性化総合整備事業 刈屋敷地区圃場整備工事
1993年(平成5年)	新潟県 前橋営林局長	・ 普通林道坊金高山線開設工事 ・ 杉野沢(氷沢)林道新設工事
1994年(平成6年)	前橋営林局長	・ 藤巻林道新設工事
1996年(平成8年)	前橋営林局長 新潟県	・ 杉野沢(杉野沢)林道災害復旧工事 ・ 東頸城地区安塚工区第29次工事
1999年(平成11年)	新潟県 新潟県	・ 柿野川広域河改基幹(一般)工事 ・ 過疎代行林道飯室横川線開設工事
2000年(平成12年)	新潟県	・ 儀明上地区災害関連緊急地すべり工事
2003年(平成15年)	新潟県	・ 牧村道落田川井沢緊急地方道整備 (Bタイプ・代行)工事
2006年(平成18年)	関東森林管理局長	・ 上山地区(船倉川)地すべり防止工事
2008年(平成20年)	新潟県 上越市 新潟県	・ 農免農道整備事業上岡3期地区 第6次工事 ・ 南本町2丁目他地内公共下水道 舗装本復旧工事 ・ 坪野地区防災 / 安全(地すべり対策) その2工事



年 度	発 注 元	工 事 名
2010年(平成22年)	新潟県	・ 安塚区行野地内 水道管入替(第6工区)工事
2011年(平成23年)	上越市 上越市 上越市	・ 安塚区坊金地内 水道管入替(第8工区)工事 ・ 林道牛ヶ鼻浦田線その1災害復旧工事 ・ 上千原 / 横曽根地内 道路舗装修繕工事
2012年(平成24年)	上越市	・ 浦川原区印内 林道舗装新設工事
2013年(平成25年)	新潟県 新潟県 新潟県 上越市	・ 一般国道253号山本工区 排水樋門工事 ・ 地すべり防止事業 地第4号地すべり防止工事 ・ 須川南地区地すべり対策(交付金)工事 ・ 安塚区細野地内水道管入替(第21工区)工事
2014年(平成26年)	林野庁長官 上越市 上越市 林野庁長官	・ 楡池地区地すべり防止工事(第2工区) ・ 浦川原横住地内 道路災害復旧工事 ・ 大潟区上小船津浜地内 226他舗装本復旧工事 ・ 上山地区(大和合)地すべり防止工事
2015年(平成27年)	上越市	・ 吉川区山中地内 道路改良工事(長倉工易受注)
2016年(平成28年)	新潟県	・ 地すべり防止事業 債地第3号地すべり防止工事
2017年(平成29年)	新潟県 上越市 関東森林管理局長	・ 県営地すべり対策事業 牧中部地区第28-1次工事 ・ 大島区中野地内 道路舗装修繕工事 ・ 上山地区(赤坂)地すべり防止工事
2018年(平成30年)	新潟県	・ 県営地すべり対策事業 牧中部地区第29-1次工事
2019年(令和元年)	新潟県	・ 坪野地区防災 / 安全 (地すべり対策) その2工事
2020年(令和2年)	新潟県	・ 復第13号 復旧治山工事
2021年(令和3年)	林野庁長官	・ 上山区域(桜峰外)地すべり防止工事(R元翌債)
2022年(令和4年)	新潟県	・ 地すべり防止事業 債地第3号地すべり防止工事
2024年(令和6年)	新潟県	・ 主要地方道大潟高柳線 道路改良工事





Taiyou kaihatsu History & Data

沿革 & データ

Taiyou kaihatsu History 沿革

社内のできごと

1968～

- 1968年(昭和43年) 大陽開発株式会社創立
- 1973年(昭和48年) 舗装部門新設
- 1974年(昭和49年) 建築部門新設
- 1977年(昭和52年) 円平第1倉庫・整備工場新設
- 1978年(昭和53年) 実行予算要綱作成
- 1979年(昭和54年) 長倉工易(有)設立
円平給油施設新設

80's

- 1980年(昭和55年) 妙高杉野沢に大陽寮新築
アスファルト合材プラント新設



旧社屋外観



旧社屋内観



創業時のブルドーザー

アスファルトフィニッシャー
ボーリングマシンTOP
オフィスコンピュータ
ボーリングマシンTBM-72
コンクリートポンプ車
パワープロベスター
ボーリングマシン 再活用



創立8周年集会

時代に合わせて導入・購入した設備

社会のできごと

- メキシコ五輪開催(1968年)
- 関川氾濫 豪雨及び台風7号(1969年8月)
- 上越市発足(1971年4月)
- 第2次ベビーブーム(1971～1974年)
- 岐阜県豪雨(1972年7月)
- オイルショックによる物価急上昇(1973年)
- モントリオール五輪開催(1976年)
- 白田切川土石流災害(1978年5月18日)
- モスクワ五輪開催 米国他西側諸国がボイコット(1980年)
- 関川氾濫 台風15号(1981年8月)
- 関川氾濫 台風18号(1982年9月)
- 長野県 台風18号(1982年9月)
- ロッキード事件 田中元首相に実刑判決(1983年10月)
- 日経平均株価 1万円の大台に乗る(1984年1月)
- ロサンゼルス五輪開催 ソ連他東側諸国がボイコット(1984年)
- 関川氾濫 7月梅雨前線(1985年7月)
- ガット・ウルグアイ・ラウンド開始(1986年)
- 東京外為市場で円急騰 初の150円/ドル突破(1987年1月)
- ブラックマンデー/ NY株価大暴落(1987年10月)
- ソウル五輪開催 12年ぶりに東西両陣営が参加(1988年)
- 日経平均株価が初の3万円台に(1988年12月)
- 平成に改元(1989年1月)
- 日経平均株価 史上最高値38,915円を記録(1989年12月)
- バブル経済崩壊(1991年)
- 国家公務員の完全週休2日制スタート(1992年5月)
- バルセロナ五輪開催(1992年)
- ガット・ウルグアイ・ラウンド実施合意(1993年12月)
- 阪神淡路大震災(1995年1月)
- 新潟県7.11水害(1995年7月)
- アトランタ五輪開催(1996年)
- 消費税引き上げ(3%→5%)(1997年4月)
- 金融機関破綻相次ぐ(山一証券、三洋証券など)(1997年11月)
- 日銀がゼロ金利政策を開始(1999年2月～2000年8月)
- ITバブル崩壊(2000年)
- シドニー五輪開催(2000年)



「農免農道事業川平地区第3次工事」工事の様子



「松崎石橋線改良第4工事・第5工事」施工計画会議



「堀切川通常砂防(荒廃)工事」工事の様子



「災害関連緊急地すべり対策事業連野地区第一工事」朝の打ち合わせの様子



平成初期 休憩の様子



平成初期 工事看板



「日253号(三和安塚道路)一般国道軟弱地盤改良工事」現場事務所

1981年(昭和56年)～ SQ活動がスタート

- 1982年(昭和57年) 亀岡書一氏監修の元「SQ活動理念」を制定
- 1985年(昭和60年) 作業手順書の作成スタート
- 1988年(昭和63年) 大陽開発DNAの基礎となる「SQ活動の手引書」発刊

SQ活動理念

1. 全社員が挑戦意欲をもち、ひとりよがりの仕事を排し、チームプレーに徹する。
2. 末代まで評価される確実な自信のもてる仕事を通じて、安全で明るい誇りある職場をつくる。
3. 技術に『まごころ』をそえ、社会的使命を果たす。

SQ活動とは

SQ活動の目的は安全作業の確保です。従来のトップからの指示命令の徹底だけでは安全作業の確保は難しく、事故災害をなくすことはできませんでした。そこで昭和57年、現場で働く人たち一人ひとりが主役となったSQ活動を通じて、安全で働きやすい環境づくりと、よりよい品質の向上を目指し始めました。サークル活動で報奨金をもらったり、1年間で起きた事故の反省と対策を社員全員で考えたり、データ分析について学んだり、稼働率の向上についてグループ討論会を行ったり…そして大陽開発株式会社の基礎ができあがり、時を経て、SQ活動理念は企業理念となりました。

SQ活動手引書の発行

“安全”を最重点とした大陽開発株式会社独自のSQ活動が誕生して、6年の歳月が流れました。この間におけるSQ活動の成果は、施工の品質においては成果が出ましたが、残念ながら労働災害は引き続き発生し、初期の目的である“安全作業の確保”は果たされていないのが現状でありました。このような現実を踏まえ、今一度SQ活動の原点に戻りSQそのものを再認識するとともに、今までの活動上の諸問題について見直しが図られ、そして、“SQ活動手引書”の発刊に至りました。手引書では「整理整頓」「機械設備」「環境・条件」「資材・材料」「人」「作業手順・やり方」「管理基準・写真」に関するテーマについて研究した内容が記載されており、研究結果は見えるものとして、また見えないものとしても現在まで脈々と受け継がれています。



「勉強会議事録」



「重機一覧」

- 1983年(昭和58年) 円平事務所兼除雪センター新築
- 1986年(昭和61年) 長倉工易(有)工事受注多数 受注数最盛期
- 1987年(昭和62年) 社長 荒木一、会長 荒木清良就任
円平第2倉庫新設



殉職者追弔法要(追悼)



創立22周年記念式典

90's

- 1992年(平成4年) 現本社社屋落成
新ロゴマーク誕生
- 1993年(平成5年) 春日山建設(株)設立
- 1996年(平成8年) 牧出張所新築
(有)地水技建設立
円平第1倉庫増築
- 1998年(平成10年) ISO9001取得
- 1999年(平成11年) さくらアスコン設立(植木組・田中産業・大陽開発・三牧建設工業JV)



大陽開発新ロゴマーク



創立28周年記念式典



新社屋竣工



冬期研修会(1999年)

ワープロ
ボーリングマシンYBM-SL
ボーリングマシンUD-5
大型運搬車MST600
ボーリングマシンTOM-3
25Tラフタークレーン



メンク

原価管理ソフト 地域で最初に導入
積算用PC
ボーリングマシンTDC-1
スピーダーSR-18S型
ボーリングマシンHDS-M型
スジガネクン(SSP工法鉄筋急速打設装置)
建設システム
ボーリングマシンTOM-3
アスファルトフィニッシャー
塩ビライナー

社内のできごと

2000～

- 2000年(平成12年)

上越改良土センター設立
- 2005年(平成17年)

十日町営業所開設
- 2006年(平成18年)

サンドブラスト事業開始
- 2007年(平成19年)

OMライニング工法協会入会
円平除雪車格納庫新設
- 2008年(平成20年)

ポータブル・ワイヤレス・ライブカメラシステム(OPECA)開発・販売・レンタル事業開始

10's

- 2011年(平成23年)

高田河川国道事務所初契約
放電破砕事業参入
- 2013年(平成25年)

光硬化工法協会入会
- 2017年(平成29年)

日本SPR工法協会入会
- 2018年(平成30年)

社長 荒木克、会長 荒木一就任
全国バラボラ工法協会入会
新潟県ハッピーパートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)認定
- 2019年(平成31年)

安塚残土処理運営体設立

20's

経営理念/行動指針 更新

荒木克社長就任後、時代の変化に合わせて令和2年に経営理念と行動指針が新たなものになりました。

経営理念

『元気あふれる地域をつくる』

行動指針

1.

私達は、
地域社会開発の先駆者たる
誇りと責任によって、
安全・安心・快適で豊かな暮らしを提供し、
持続可能な地域づくりに貢献します。
2.

私達は、
高度な技術と
“まごころ”を持ち、
末代まで評価される
三方良しの仕事を目指します。
3.

私達は、
高い挑戦意欲を持ち、
相互信頼とチームプレーで
いかなる難関にも
立ち向かいます。
4.

私達は、
明るく健康で楽しい
職場づくりに努め、
自らの存在によって地域に
前向きな影響を与えます。

- 2021年(令和3年)

主要地方道上越頸城大湯線 県単道路除雪業務(拡幅除雪・運搬排雪)
新潟SDGs推進企業登録
現本社倉庫落成
- 2022年(令和4年)

にいがた健康経営推進企業認定
上越バラボラ工法協会設立
国交省災害対策初出動「令和4年災害対策用出動管理その5工事」
女性活躍推進法に基づく認定制度 えるぼし認定
健康経営優良法人2023認定
- 2023年(令和5年)

健康経営優良法人2023認定
- 2024年(令和6年)

にいがた健康経営推進企業 マスター2024認定
本社1階・食堂・トイレ改修
新潟県ハッピーパートナー パパ・ママ子育て応援プラス認定
円平倉庫屋根塗装、改修
健康経営優良法人2024認定
能登半島地震災害対応(給水車支援)



「上越頸城大湯線 県単道路除雪」令和3年の大雪による災害復旧作業



にいがた健康経営登録証



新潟SDGs推進企業登録証



えるぼし認定通知書

時代に合わせて導入・購入した設備

ボーリングマシンD1C48(L)-S1

原価管理システム(NSC)更新

ボーリングマシンD1C58(L)-S1

チビホウTM20-2

サンドブラストマシン

原価管理システム(JCS)更新

ボーリングマシン
エムズスプリングドリル

ドローンPHANTOM 3

ドローンPHANTOM 4

バラボラカッター



TREND-POINT



マシンコントロールバックホウ

フォトスキャン

ボーリングポンプBG-30B

ボーリングマシンK0-C



©Elina Yamasaki 操作画面

マシンガイダンスシステム レトロフィット

3Dレーザースキャナー



ドローンMAVIC2

TREND-CORE

杭ナビ

杭ナビシヨベル



パソコン教室(2000年)



「下保倉橋架替」工事の様子



櫛池地区地すべり防止工事(第2工区)工事看板



平成後期 安全掲示板



平成後期 創意工夫



「上岡地区第28-2次工事」朝の打ち合わせの様子



令和初期 工事看板



令和初期 安全掲示板

社会のできごと

日銀が初めての「量的金融緩和政策」を開始(2001年3月)

大手銀行経営統合(三和・東海・東洋信託銀行→UFJ、東京三菱・三菱信託・日本信託銀行→東京三菱、さくら・住友→三井住友)(2001年4月)

学校週5日制・ゆとり教育がスタート(2002年4月)

日本の人口がピーク(2004年)

アテネ五輪開催(2004年)

新潟県中越地震(2004年10月)

新上越市誕生(2005年1月)

65歳以上の高齢者比率が初めて20%超に(2005年)

新潟県中越沖地震(2007年7月)

郵政民営化(2007年10月)

北京五輪開催(2008年)

衆院選で民主党が大勝利し政権交代(2009年8月)

東日本大震災(2011年3月)

ロンドン五輪開催(2012年)

第2次安倍政権発足 アベノミクス開始(2012年12月)

日銀が「量的・質的金融緩和(異次元緩和)政策」を開始(2013年4月)

消費税引き上げ(5%→8%)(2014年4月)

マイナンバー制度スタート(2016年1月)

日銀がマイナス金利導入(2016年1月)

リオデジャネイロ五輪開催(2016年8月)

成人年齢 18歳に引き下げる改正民法成立(2018年6月)

令和に改元(2019年5月)

消費税引き上げ(8%→10%)(2019年10月)

新型コロナ感染拡大 緊急事態宣言発令(2020年4月)

令和3年の大雪(2021年1月)

新型コロナワクチン接種開始(2021年2月)

東京五輪開催(2021年)

新潟県村上豪雨(2022年8月)

物価高騰 商品値上げ相次ぐ(2022年10月)

32年ぶり円安、1ドル=150円突破(2022年10月)

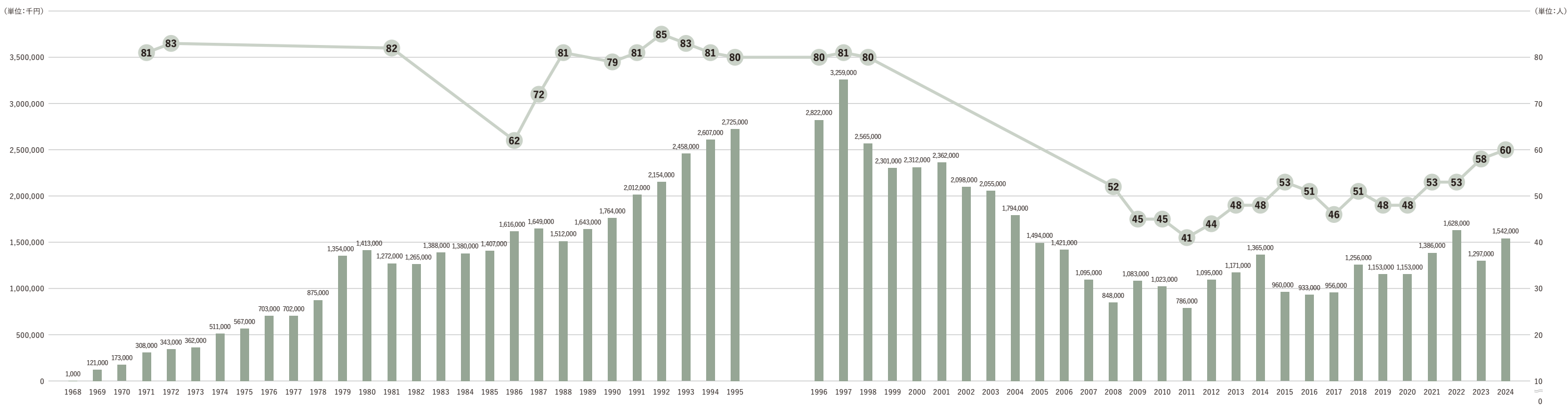
新型コロナ「5類」引き下げ(2023年5月)

能登半島地震(2024年1月)

パリ五輪開催(2024年)

気象庁が初めて南海トラフ地震の臨時情報を発表(2024年8月)

【 売上高と社員数 】



【 Taiyou Kaihatsu Crew 】



創業時 事務所女性社員



1990年 社員旅行



1995年 社員旅行



1997年 社員旅行



1997年 納涼会



1998年 新年会



1998年 納涼大会



1999年 節分



1999年 納涼大会



2000年 新年会



2012年 社員旅行



2016年 社員旅行



2018年 社員旅行



2022年 全体会議(会長古希祝い)



2022年 忘年会



2023年 社員旅行



2024年 研修会



2024年 第1回 ハロウィンBBQパーティー



message from Elina Yamasaki

大陽開発株式会社様の撮影をさせていただいて

これまでインフラメンテナンス、土木や建設の現場撮影では「人」にクローズアップして撮影に挑んできました。今回、大陽開発株式会社様の現場で作業する人たちに魅了されたのはもちろんですが、それだけでなく作業すべてに「誇りと心意気」を感じました。その一つがセレクトさせていただいた地滑り対策の石積みの写真です。石積

みをここまで丁寧に積み上げ、景観の美しさにまで拘る心意気に胸を打たれました。石積みの写真に人は写っていませんが、この石の一つ一つに積まれた皆様のお人柄や仕事への誇りと共に、大陽開発株式会社様のこれまで育まれた信念が伝承されてきたからこそその軌跡があるのではないかと感じました。それだけではありま

せん。カメラに向けてくださった笑顔や真剣に作業される姿、至近距離からの撮影で照れくさそうにほわりと微笑んでくださる表情など、どれも私にとってかけがえのない最高の写真です。人が通らない山奥での現場で汗をかき、泥まみれになりながら大変な環境の中で旧東頸城地域の方々を守り、皆様がワンチームとなって

地域を作り上げていく軌跡の一コマを写真に収めさせていただいたことに心より感謝申し上げます。
たくさんの感動の瞬間をありがとうございました。

写真家 山崎エリナ



Taiyou kaihatsu Photos by Elina Yamasaki







Taiyou kaihatsu Photos

by Elina Yamasaki





あとがき

大陽開発株式会社『DNA book』をお読みいただき、 ありがとうございました。

本誌の作成に至ったきっかけは、2018年に創業50周年を迎えるにあたり、なにか記念になるものはないか？というところからでした。わが社はそれなりに長い歴史があるにもかかわらず社史を制作したことがなく、会社の歴史をきちんとした形で残せていませんでした。また、これまで歩んできた会社の歴史を知らない社員が年々増加、その一方でOB・OGの高齢化は進んでいます。記念事業として始まった本誌編纂ですが、その根底には「会社が積み上げてきた歴史と文化を残しておかないと、近いうちに誰にもわからなくなってしまう。この機会を逃してはならない！」という往時を知る会長や役員の強い想いがありました。しかし、早く始めたいという思いはありつつも、結局本格的に着手できたのは2022年。当初考えていた50周年どころではなくなりましたが、どうにかプロジェクトはスタートしました。

せっかく社史を作成するなら、歴史的な記録と写真をただ掲載するだけではもったいない。読まれないまま書棚に眠らせるのではなく、様々な人達から興味を持って読んでもらえるようにしたいということで、テーマを“社史っぽくない、読みたくなる社史”に設定し、編纂に臨みました。では、“読みたくなる社史”とは何か？いざ始めてみると、なかなか難しいテーマでした。そこでまず、そもそも私たちは誰に何を読んで欲しいのか？この社史によって何を伝えたいのか？という目的を明確にすることから始めました。何度も検討を重ねる中で、これから先の大陽開発を担う若手社員や、就職活動中の学生たちに対して、「時代が大きく変化する中でも変わることのない、大陽開発を大陽開発たらしめる、これからも引き継ぐべきコアの部分＝【DNA】を伝えたい」という想いにたどり着きました。こうして、社史制作プロジェクトは、『DNA book』制作プロジェクトへと形を変えていきました。

次に始めたのは、歴史資料の収集でした。倉庫に眠っていた過去の写真やネガ、社内報、施工計画書、工事台帳等を探索。さらに昔を知る社員やOBの方々に資料提供の呼びかけも行いました。その結果、さすがに創業初期の資料はあまり残っていませんでしたが、貴重な歴史的資料が数多く集まり、本誌編纂に大いに活用できただけでなく、同時に会社の歴史を学ぶことができました。一番大変だったのは、過去の写真・社内報などの歴史的記録や、会長・常務・OB等の歴史を知る方々へのインタビューやアンケートの中から、大陽開発のDNAとなる要素を抽出すること。語り尽くせない程の思い出やエピソードの数々を前に作業は難航し、収拾のめどがたたないほど。しかし、どの話も私たちにとっては貴重な体験談であり、会社の重要な記録として残していくべき大切なものでした。めっちゃくちゃ面白いけれど今ではNG過ぎて掲載できない話などもあり、お聞きした内容の全部は反映できませんでしたが(笑)、時間をかけて検討し、なんとか伝えるべき要素をまとめることができました。現役社員がこれから新たな大陽開発を創っていくためのガイドブックとして、新人・若手社員の教育材料として、将来を担ってくれるかもしれない学生達に向けた会社案内として、本誌が有効的に活用されることを願っています。

わが社は創業以来、幾多の試練と変革を経験しながらも、地域社会に貢献することを使命として事業を展開。その足跡を振り返ることで、先人たちの積み重ねてきた苦労や努力を改めて感じることができました。これまでの歴史なくして、今の私たちはありません。それは私たちにとって貴重な財産であり、未来を切り開くための力強い礎となっています。しかし、常に新しい価値を創造し続けることが求められる変化の激しい現代において、私たちはこれまでの成功や経験にばかり頼って安住してはいられません。先人達が築きあげてきた伝統や文化に恥じぬよう、100年企業を目指して、これから先も大陽開発のDNAともいえる『挑戦』を続けることで成長し、次代の礎となるよう一層努力してまいります。

最後に、本誌を編纂するにあたり、これまで会社を支えてくださった社員、関係者の皆様、こちらのわがままな要望に企画段階から伴走いただきました株式会社ORANGEの皆様に、深く感謝申し上げます。今後も社員一同、益々精進し、社業の発展に邁進してまいります。引き続き皆様からご支援を賜りますようお願いを申し上げて、結びの言葉といたします。

2025年(令和7年)4月
大陽開発株式会社 代表取締役社長 荒木 克



大陽開発株式会社
TAIYOUKAIHATSU CO.,LTD